『戦時戦後の『文化情報』―新聞・出版・印刷・紙業・内外情報之新聞』より―各主題のご案内①

出版の実態

出版情報

自覺と協力を期待

―出版新文化につき松本文化局長語る―

企畫審査通過とはいかにして行ふか

文協に訊く一問一答

企畫周問答（五）

『文化情報』は、激動の時代の新聞・出版メディア界の様子を伝える。

広告・印刷・製本

廣告新體制を語る（3）

記事面の整理可能

新聞は廣告媒體の花形

印刷情報

日本印刷文化協會（假稱）

堂々の設立委員選出は元老一任

印刷界の面目刷新策

關西中堅座談會

文学・文化

我等は賛賛す

―出版報國の職域から―

下中彌三郎

落葉松の詩人

室生犀星

一市井人として

武田麟太郎氏

1940年代は、日本がアジア太平洋戦争に突入し、
それに敗戦し、戦後復興へと向かう激動の時期である。
新聞・出版メディア界においても、戦時下には新聞社や出版社の統合が行われ、
そして敗戦後はGHQによる解放と新たな統制を受けることとなる。

『戦時戦後の『文化情報』—新聞・出版・印刷・紙業・内外情報之新聞』より—各主題のご案内②

メディア紙の回顧談

『文化情報』は新聞・出版の業界紙として特異な位置を占める。
それは『文化情報』が二つの統制の時代に活動した業界紙であるからである。
第一の統制の時代は戦時期、そして第二の統制の時代は戦後占領期。

書店・流通

データベース化され、関係記事を見つけやすい『朝日』『読売』新聞ばかりに依拠し、
その歴史的時代において、それらの新聞紙がどのようなメディアであったのかという
基本的な「史料批判」がおろそかになっていないだろうか？

外地・植民地